



## 福祉への理解深める「星の降る里ふれあい広場」の開催



「星の降る里 ふれあい広場」が、9月1日、市役所庁舎前もとまち公園で開催されました。

障がいをもつ方が社会にハンデキャップを負わずに住める社会をつくるため、「ふれあい、たすけあい、理解しあう地域をつくろう」をテーマに芦別市社会福祉協議会と芦別市身体障害者福祉協会が毎年開催してい

るこのイベント。当日は市内の福祉施設や各団体が露天などを出店したほか、福祉車両の展示、盲導犬や車いすの体験なども行われました。

またステージでは高齢者健康コンクールの表彰をはじめ、手話サークルによる合唱や子ども太鼓の演奏も行われるなど、会場は終日和やかな雰囲気になっていました。



## 「総力でのまちづくり」深尾龍谷大学教授による講演会

9月2日、龍谷大学教授の深尾昌峰<sup>ふかおまさたか</sup>氏を講師に迎え、市総合福祉センター別館で「地域が地域でありつづけるために～総力でのまちづくり～」と題した講演会が行われました。

深尾教授はNPO設立運営などの経験を踏まえ、「人口減少が進む中、これからの地域づくりは行政と住民

の総力で取り組まなければならない」と示唆に富んだ話を展開。実際に市民が行動を起こし地域課題の解決につなげた事例なども紹介し、訪れた市民の皆さんは熱心に耳を傾けていました。なお、この講演会の進行役は、市の応援大使である同大教授の土山希美<sup>きみ</sup>さんが務めました。



## 認知症高齢者を地域ぐるみで支える模擬訓練の実施



9月3日、芦別市では初めての開催となる「芦別市高齢者SOSネットワーク声掛け模擬訓練」が、芦別市地域包括支援センターの主催により、旭町町内会館で行われました。

これは認知症高齢者の方が行方不明になった際を想定し、警察への迅速な捜索依頼や発見時の適切な声掛

け方法などについて学び、早期発見と安全保護に繋げるための訓練。

当日は地域住民を中心に30人が参加し、認知症サポーター養成講座や警察署署員による講習会が行われたほか、認知症役の方が道に迷った設定で町かどに立ち、参加者が実際に声掛けを行う訓練も行いました。



## ビックボイス社 カフェ営業やITイベント開催で地域交流

8月19日から9月8日にかけて、IT企業(株)ビックボイスによるイベント「Operation ASHIBETSU～芦別大作戦～」が、芦別事業所(旧上芦別保育園)で開催されました。

これはITを楽しく身近に感じてもらうという地域振興イベントで、期間中は事業所内にカフェ「ピリカスクエア」を限定オープンし、子

ども向けプログラミング教室などをはじめさまざまなIT体験を実施。

他にも多種多様な企画が催され、芦別出身シェフによるフレンチ料理の提供や、キックボクサー佐々木大蔵選手とのミット打ち体験も行われるなど、イベント期間中は地域住民や子どもたちがたくさん訪れ地域交流の場を楽しんでいました。

